

現物資産として独特の値動きを見せる「金」 ～分散投資における有効性の高いパーツ

金は消えたり腐食せずに価値を保ち続ける「実物資産」であるため、株式や債券のような発行体の信用リスクが存在せず、需給により価格は揺れ動きますが、下がったとしてもゼロにはならないということから、株式や債券などに比べると安心感がある資産です。また、換金性が高く、世界中で同価値として扱われる傾向があるとともに、金融危機や地政学リスクが高まる局面では、資金の逃避先として買われるなど、一般的な投資資産と異なる面を持ちます。

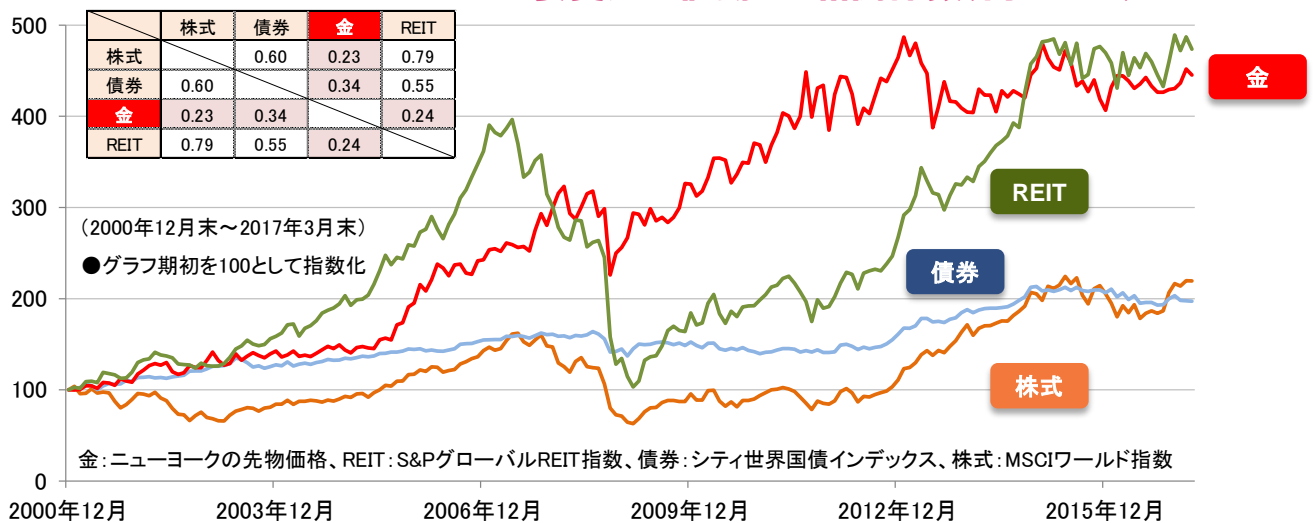
実際に過去を振り返って(下グラフ参照)見ても、株式や債券などと異なる値動きとなっており、リーマン・ショック時の値下がりも小さく、その後の回復までにかかった時間も他の資産に比べ短いものとなりました。また、最近では、英国国民投票においてEU(欧州連合)離脱の選択が成された時や、昨秋の米国大統領選挙の前、中東や朝鮮半島を巡る地政学リスクが高まった局面など、金融市場が動揺を見せた中で、比較的安定した値動きとなりました。

分散投資では、複数の資産を選択して投資を行いますが、資産や地域などが異なるだけでなく、値動きが異なる傾向にあることも、資産の選択において有効であるとされています。資産間の値動きの異なり具合を見る指標としては「相関係数」がありますが、株式や債券などの伝統的な資産と、金との相関係数は下記のグラフの期間で0.3前後と、相対的に低い水準にあり、分散投資において金と伝統的な資産を組み合わせることの有用性が示唆されています。

金には、金価格と採掘・製錬コストの見合いで産出量が増減したり、各国政府が独自の事情で保有残高を増減させることなど、伝統的な資産とは異なる要因で価格が変化する特徴があります。また、保有しても利息が付かないなど特有の難しさがあることから、単独での投資ではなく、分散投資を行なう際に有効性の高い資産の一つとして活用を考えたほうが良いでしょう。

【相関係数】月次騰落率をもとに算出

主要資産の値動きと相関係数(円ベース)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。